

1.研修プログラムの名称

内視鏡センター研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

内視鏡センターは、上部・下部消化管内視鏡および気管支鏡を行なっている。

内視鏡センター専属医師のみではなく、消化器内科、消化器外科、呼吸器外科医師と共に協力し検査および治療を進めている。

（年間検査件数：上部消化管内視鏡 6500 件 下部消化管内視鏡 3500 件）

<検査>

特殊検査としては超音波内視鏡、拡大内視鏡を施行しており診断率の向上を目指している。

一方で経鼻的上部消化管内視鏡等により、検査時の苦痛軽減にも努めている。

<治療>

また内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）をはじめとした腫瘍性病変に対する治療、緊急対応として出血性病変に対する止血術、異物誤飲に異物除去術等を行なっている。

3.一般目標

上部・下部消化管疾患の診断をすることが目標となる。具体的には

- 1) 食道・胃・大腸癌を中心とした内視鏡診断をするために必要な上部・下部消化管の正常解剖、色素内視鏡検査、拡大内視鏡検査および超音波内視鏡検査の適応、さらに各種内視鏡的治療の適応・選択法などを理解する。
- 2) 食道・胃および大腸の模型を使い内視鏡検査手技を習得する。
- 3) 指導医とともに、検査に入り、生検、ポリペクトミーなどの手技を補助として行う。

4.具体的目標

1) 経験すべき診察法・検査・手技

1. 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
2. 内視鏡検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる

2) 経験すべき症状・病態・疾患

3. 食欲不振を診察し治療に参加できる
4. 体重減少・体重増加を診察し治療に参加できる
5. 嘔気・嘔吐を診察し治療に参加できる
6. 胸やけを診察し治療に参加できる
7. 嚥下困難を診察し治療に参加できる
8. 腹痛を診察し治療に参加できる
9. 便秘異常(下痢・便秘)を診察し治療に参加できる
10. ショックについて初期治療に参加できる
11. 急性消化管出血について初期治療に参加できる
12. 貧血（鉄欠乏性、二次性貧血）を診察し治療に参加できる
13. 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）を診察し治療に参加できる
14. 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）を診察し治療に参加できる

5.指導体制・方略

基本的には、1 ヶ月間を通じ、指導医とともに行動する。検査を行った症例の内視鏡診断を研修する。2 週間に 1 回の病理とのカンファレンスにて、胃癌を中心とした内視鏡所見と病理所見を比較検討する。

内視鏡検査・治療に関する周術期管理ならびにスコープ洗浄・消毒に看護師、内視鏡検査技師（臨床検査技師）、麻酔科、感染症科などとの連携に関するチーム医療を行っている。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	上部消化管検査					
午後	下部消化管検査・内視鏡的治療					

7.研修活動

学会、研究会への参加、希望により発表の指導を行う。他施設との研修活動を行う。

8.評価

1) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する
EPOC を用いて自己評価を行う
研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

EPOC を用いて評価する
研修事後レポートより評価する
他者評価表を用いて評価する
研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

3) コメディカルによる評価

EPOC 又は評価表を用いて評価する
他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する
評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項

学会、研究会への参加、希望により発表の指導を行う。

将来的に消化器内科を目指す向学の志をもつ者にとり、一助となればと思い指導している。